（様式－２）

再　発　防　止　対　策

関西支部

発　生　日　時	令和　５ 年　６月１５日（木曜日）１３ 時２３分							天　候	晴	
災害の程度	死亡　　名		負傷　名		電　工 （作業責任者）		年令５２才		経験年数３３　年	
工事の種類	調査 測量	伐　採	運　搬	仮　設	基　礎	組　立	足　場	架　線	撤　去	その他
災害の種類	墜落・転落	転　倒	物の飛来・ 落下	崩壊・倒壊	はさまれ・ 巻き込まれ	切れ・ こすれ	感　電	その他		
原　　因	作業準備 の不良	作業方法 の不良	工具防具 の不良	電気工作 物の不良	作業者 の過失	共同作業 者の過失	その他			

問題点と再発防止対策

【件　　名】　　ヘリ物輸荷上げ作業中、吊荷に左腕を挟まれ受傷

１，発生要因

・被災者は、退避後にも関わらず合図者に連絡せず吊荷へ接近した。

・合図者は、吊荷とヘリコプターの状況を確認しており、被災者（玉掛者）の状況を確認していなかった。

・機上誘導員（機付整備士）は、合図なしに吊荷へ接近した被災者を、吊荷の介添えと誤認し上昇を継続した。

２，同種災害再発防止対策

○ヘリコプター物資輸送マニュアルの次回改正に反映する。（注）

○玉掛者が退避後に吊荷へ接近する場合は、合図者にヘリ静止の合図を行い、吊荷が静止したことを確認したうえで接近することを徹底する。

○合図者はヘリコプター、吊荷の状況とともに玉掛者等の状況を確認し、合図者の位置、玉掛者の退避場所は、これが可能となる位置を選定する。

○合図者は玉掛者等が合図なしに退避場所から吊荷へ接近した場合、ヘリ静止の合図を行う。

○機上誘導員（機付整備士）は玉掛者等が合図なしに退避場所から吊荷へ接近した場合、パイロットに静止連絡を行う。

（注）ヘリコプター物資輸送マニュアル 改訂箇所

Ⅵ，ヘリコプター物輸の実施

（９）玉掛け（荷掛け）手順

(C) 荷掛け後の確認

フックに荷物を掛けたら、荷が振れても安全な位置まで退避する。但し、荷の介添えが必要な場合は、細心の注意を払い介添え時間を最小限に留める。

※ 機体、特に機外吊り下げフックの動きを注視し、決して背を向けない。

※ 吊荷と荷物の間に入らない。

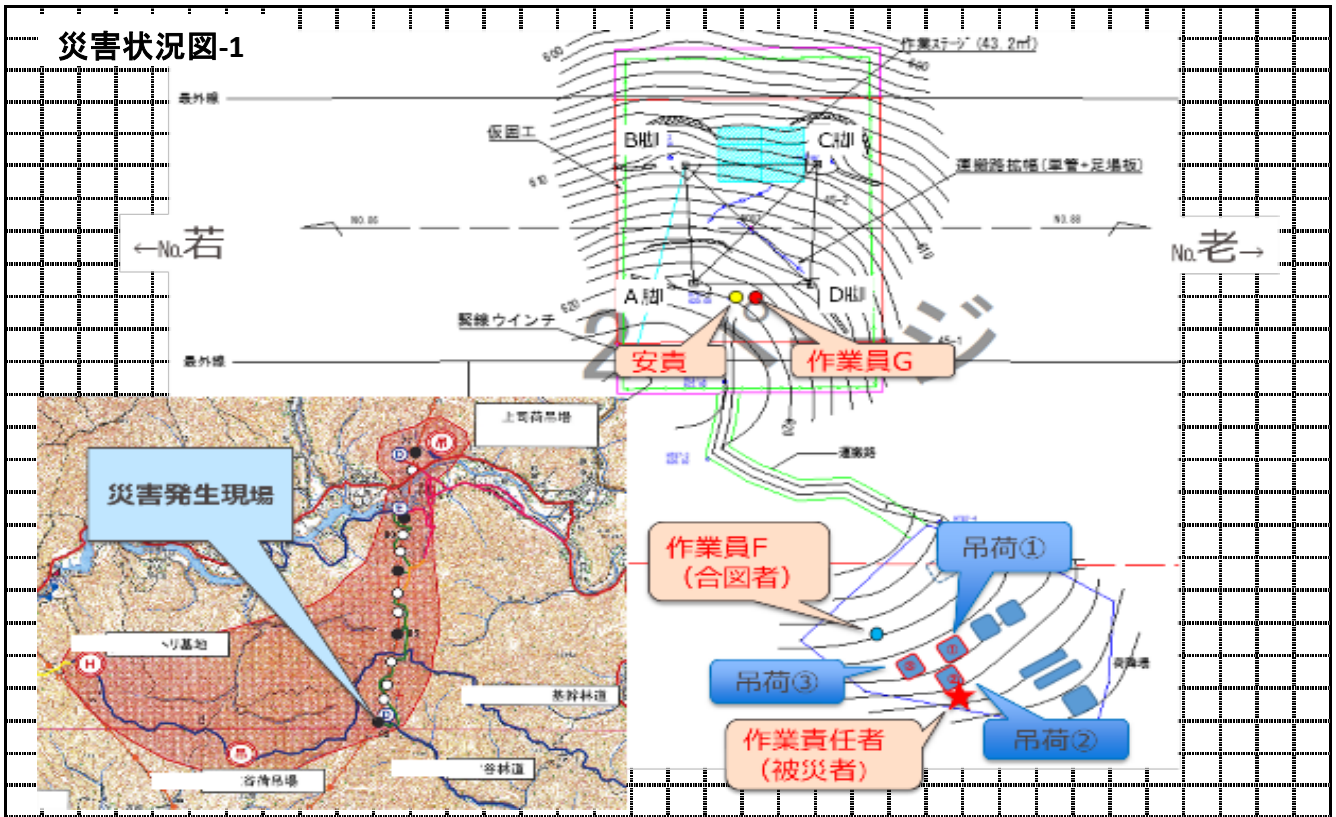
（注）1.　「人身災害報告要領」に基づいて記載するものとし、「工事の種類」「災害の種類」「原因」については該当項目に○印を付ける。

2.　災害状況の説明と共になるべく図面を添付すること（様式－2）。特に感電の場合は支持物、電線の離隔距離その他寸法を記入する。

（様式－2）

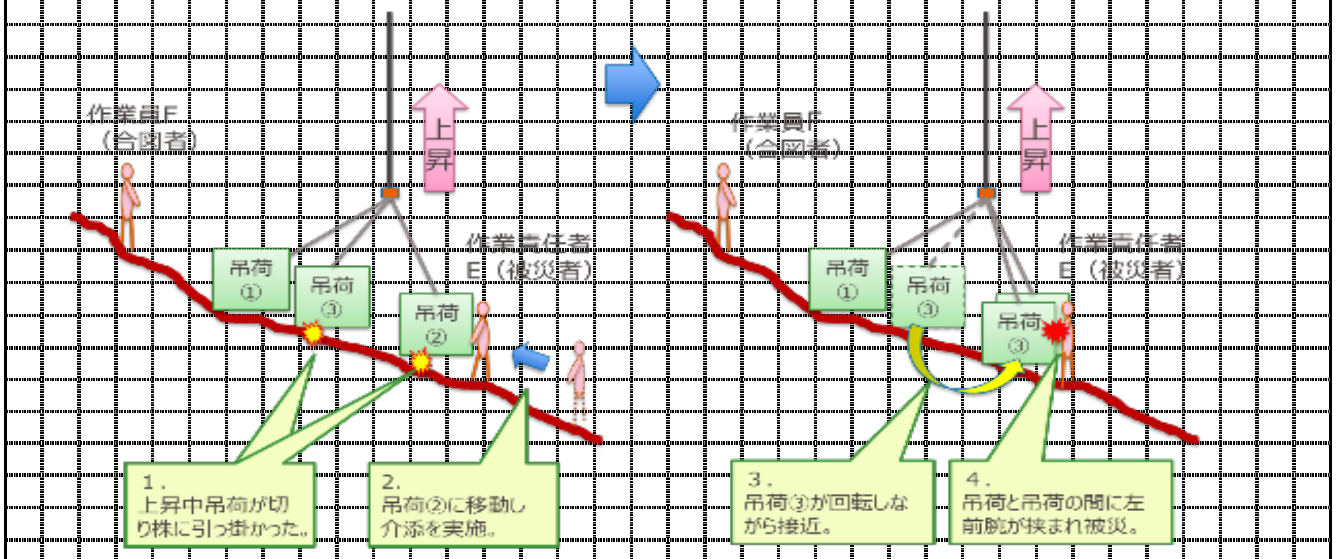
災　害　概　要　図

災害状況図-1

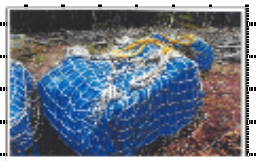


災害状況図-2

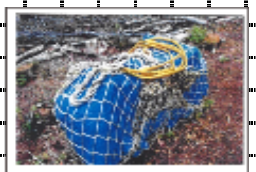
ヘリコプター上昇時に吊荷が切り株に引っ掛かったため、介添えに入ったところ別の吊荷が回転しながら接近し、吊荷と吊荷の間に左前腕が挟まれ被災。



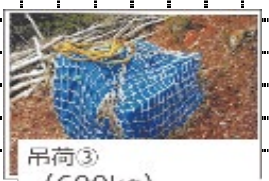
吊荷（モッコ）状態

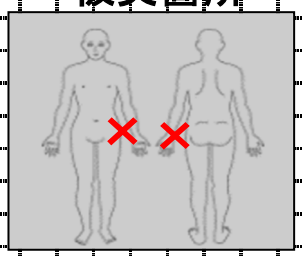


吊荷①
（1000kg）



吊荷②
（500kg）



吊荷③
（600kg）

被災箇所